エンパワーするNGO YWCA

一般財団広島 YWCA

《夕張中学生　広島平和学習受け入れプログラム》

北海道夕張市は 1994 年から 2006 年まで「中学生広島派遣事業」を続けてきました。この派遣は被爆地であるヒロシマにおいて、子どもたちに直接「戦争の恐怖」「核の悲惨さ」「平和の大切さ」を学ぶ機会をあたえ、全市の子どもたちに還元することを目的としていました。しかし、財政破綻により、2007 年度はこの派遣事業が中止となりました。この派遣事業で、交流を続けていた故沼田鈴子さんほかの被爆者の皆さんの派遣継続の強い希望により、広島 YWCA が募金活動を始め、2008 年度より夕張市教育委員会のご協力により、再開し、今年度で 7 年目となります。

当時３校あった中学校は現在夕張中学校１校に統合されましたが、初年度より３人の中学 3 年生と引率教師 1 人を迎えています。生徒数の減少に伴い、今年度は生徒 2 人と引率教師 1 人をお迎えすることになりました。

このプログラムに地元広島の若い世代の皆さんにボランティアとして加わっていただき、夕張の中学生と共に行動し、平和学習にご協力いただきたいと思います。平和教育にご関心のある方を広く求めます。

▼夕張中学生受け入れ

〈2014 年度のプログラム概要〉 ＊予定ですので、今後変更になる可能性もあります。

行程表

8 月 4 日(月)	内容
	新千歳空港発
	広島空港着
	歓迎会　受付
	歓迎会
	夕食
8 月 5 日(火)	こども広場(献詩、折り鶴献納)
	平和資料館見学(案内:多賀)
	昼食、自由時間
	8･5フィールドワーク
8 月 6 日(水)	平和記念式典
	終了⇒移動
	被曝証言(仮会館)
	夾竹桃(仮会館)
	昼食(仮会館)
	JR で宮島に出発
	宮島見学
	宮島口で夕食
8 月 7 日(木)	広島空港発
	新千歳空港着

◎ボランティアの内容

①歓迎会や交流会の準備、後片付け
②宿泊ホテルまでの送迎、各プログラム/自由時間の同行
③プログラム終了後の報告書作成や募金活動の事務作業

◎一般財団広島 YWCA　夏のプログラムのボランティアを希望する方は、
下記へお問い合わせください。(担当者:田中知子)

メール　hiroshimaywca@nifty.com
電　話　082-258-4878(水、木、金曜日　10:00～17:00)
ＦＡＸ　082-258-4878

お名前、年齢(学年)、所属学校・団体、連絡先をお伝えください。

◎ボランティア参加の条件

①プログラムの準備会が数回あります。できるだけ参加してください。
②プログラム前にオリエンテーションを行います。必ず、ご参加ください。希望を聞いて日程調整をいたします。
③プログラム期間中は広島 YWCA で保険に加入します。
④プログラムに同行する際の交通費、施設入場料などは、広島 YWCA が負担します。同行時の食費は各自でご負担ください。
⑤18 歳以下の場合、夜間のプログラムに関しては保護者の同意が必要です。
⑥プログラムの同行には、参加者とのバランスを考え、同行ボランティアの人数を制限させていただく場合があります。ご理解ください。
⑦ボランティア参加後、ボランティアに参加した感想やアンケートにご協力いただく場合があります。

昨年度参加者の感想より

今回は短い時間でしたが、私は広島の過去を実際に見て、聞いて、とても悲しくなりました。そして、夕張に帰ったあと、一人でも多くの人に私が感じたことを伝えて、平和への意識を高めてもらいたいと思いました。その中でも、私が一番印象に残ったことは、郭福順さんのお話です。
郭さんは、自分が実際に体験した「原子爆弾」の恐ろしさを自分の言葉で私たちに一生懸命お話してくれました。そこで初めて知ったのは、原子爆弾が投下された場所に近いほど「ピカッ」と光ったのを見たわけでもなく、本当に何があったのかわからないということです。郭さんは、避難しているときの様子もお話してくれました。実際に原爆を体験した人から聞くお話はとても心に響いてきました。途中、「これ以上悲しくて聞いていられない」と思う場面もありましたが、お話を聞く側よりも、話している郭さんの方が何倍も辛いのだと思うと、お話から瞳をそらさず真剣に聞こうという気持ちが大きくなりました。郭さんは、話し終えると私たちに話しかけてくれて、感謝の気持ちで胸がいっぱいになりました。郭さんは私たちに、「まずは、自分を大切にして、自分のクラスから平和を作っていってほしい」と話してくれました。私は、この言葉を大切にして、実行していきたいと思います。

今回、広島に行くのは初めてだったので、最初はドキドキとわくわくでいっぱいでした。実際に広島へ行き、色んな物を見たり触ったりしていると、戦争の恐怖や恐ろしさを感じました。一日目の原爆資料館、二日目のフィールドワーク、三日目の平和記念式典と被爆証言のこの 4 つは、私の心に深く残っています。
原爆資料館は私の知らなかったことがたくさんあり、66 年前の 8 月 6 日から今までの日本を知ることができました。原爆投下後の広島、人々、空、当時の広島を一瞬にして変えてしまったと考えると、原爆の恐ろしさを感じます。
フィールドワークはすべての碑を見ることはできませんでしたが、すべての碑にはちゃんと意味があることがわかりました。特に、韓国人の碑や原爆の子の像、峠三吉の詩などは強く心に残っています。平和記念式典は本やテレビでしか見たことがなかったので、若干緊張しました。会場では、少し怖い音楽がかかっていましたが、原爆の恐ろしさはこんなものではないと思いました。被爆証言は在日韓国人の郭福順さんに話をうかがいました。8 月 6 日の朝のことを聞くと、「音も光も衝撃もない」と言っていたのを聞いて、すごく不思議に思いました。
私は今回の広島派遣で戦争の恐怖を感じ、平和というものを考えさせられました。いじめがあれば平和とは言えません。私は夕張中学校を平和にし、夕張を平和にし、そして世界に核がなくなり、本当の平和が世界中に広がることを願います。

YWCA(ワイ・ダブリュー・シー・エー/Young Women's Christian Association)は、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際 NGO です。1855 年英国で始まり、今では日本を含む 120 あまりの国と地域で、約 2,500 万人の女性たちが活動しています。 ホームページアドレス http://www.ywca.or.jp